

公共事業終了箇所評価調査

評価確定日(令和7年10月31日)

事業コード	R7-建-終-01	区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方街路交付金事業	部 局 課 室 名	建設部 都市計画課
事業種別	現道拡幅	班 名	都市整備チーム (tel)018-860-2443
路線名等	都市計画道路 川尻広面線	担 当 課 長 名	都市計画課長 備前 亨
箇所名	秋田市大町	担 当 者 名	チームリーダー 沼田 哲務
戦 略	未来創造・地域社会戦略		
目指す姿	変革する時代に対応した地域社会の構築		
施策の方向性	持続可能でコンパクトなまちづくり		

1. 事業の概要

事業の背景及び目的	<p>(都)川尻広面線(県道名:(主)秋田岩見船岡線)の秋田市大町部分は、秋田市都心部の道路交通を迂回させる都心環状道路の一部として位置づけられている重要な幹線道路である。</p> <p>しかし、現道は一方通行規制がなされているほか、歩道も無く、円滑な道路交通が阻害されている。</p> <p>H25.7に隣接する寺町工区(344m)が完成したが、依然として当該区間がボトルネックとなり、都心環状道路の機能を十分に発揮することが出来ないことから、拡幅により一方通行を解消し、交通混雑の緩和と良好な沿道環境の形成を図る。</p>					
事業期間	前回(R3年) H26年 ~ R4年 終了 H26年 ~ R4年	総事業費	前回(R3年) 23.0 億円 終了 20.9 億円	国庫補助率	0.578	
事業規模	前回(R3年) 延長L=197m 幅員W=9.0(25.0)m 終了 延長L=197m 幅員W=9.0(25.0)m					
事業効果の要因変化及び発現状況		前回評価計画①	最終②	増減②-①	理 由	
	事業費	2,300,000	2,092,823	-207,177		
	経内費 用補 その他	工 事	527,237	412,685	-114,552	精算による減
		用 補	1,582,521	1,502,811	-79,710	精算による減
		その他	190,242	177,327	-12,915	精算による減
	事業内容	道路改築 L=197m	道路改築 L=197m			
	事業費内訳内容(千円)及び要因変化	コスト・効果対比較				
	○最終コスト 終了C②/前回評価C①=(0.91)	【便益】 便益算出条件の変更に伴う走行時間短縮便益等の減				
	○費用便益比 前回評価B/C=(1.85) ↓ 終了B/C=(1.38)	【費用】 精算による減				
	目 標 達 成 率	指 標 名	都市計画道路整備率			
指 標 式		整備済み延長/都市計画決定延長				
指標の種類		○成果指標	●業績指標	低減指標の有無	○有 ●無	
目 標 値 a		69.1% (R7.3末)		データ等の出典	秋田県の都市計画	
実 績 値 b		69.1% (R7.3末)				
達成率 b/a		100.0%		把握の時期	令和7年8月	
指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 ○指標を設定することができなかった理由及び把握方法と成果 ※データの出典含む						
自然環境の変化	道路照明、信号機を同一色とし、歩道に関しては融雪部と通常部で色を分けるなど、色彩の調和を図っている。					
社会経済情勢の変化	R1.11月 (都)千秋広面線 手形工区の供用 R2. 8月 秋田駅西口駅前広場の供用 R4. 6月 秋田芸術劇場ミルハス開館					
事業終了後の問題点及び管理・利用状況	事業により一方通行が解消され、また、歩道が整備されたことで、安全かつ円滑な交通の確保が図られている。					

住民満足度等の状況 (事業終了後)	①満足度を把握した対象 ●受益者 ●一般県民 (時期: R6年12月～R7年2月) ②満足度把握の方法 ●アンケート調査 ○各種委員会及び審議会 ○ヒアリング ○インターネット ○その他の方法 (具体的に) ③満足度の状況 道路利用者及び地域住民の約8割の方々から「とても満足」、「やや満足」と回答を得ており、満足度の高い事業となっている。
上位計画での位置付け	・秋田都市計画区域マスタープランにおける「都市交通の骨格となる環状・放射型道路網の形成」
関連プロジェクト等	・秋田市総合都市計画 ・秋田県渋滞対策推進協議会
前回評価結果等	●選定または継続 ○改善 ○見直し ○保留又は中止
	①指摘事項 特になし。
	②指摘事項への対応 特になし。

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 結 果
有 効 性	①住民満足度等の状況 ●a ○b ○c アンケート調査を実施し、道路利用者及び地域住民の約8割の方々から「とても満足」、「やや満足」と回答を得ている。	●A
	②事業目標の達成状況 ●a 達成率100%以上 ○b 達成率80%以上100%未満 ○c 達成率80%未満 当該区間の完成により、第三次救急医療施設(循環器・脳脊髄センター、秋田大学附属病院)及び秋田駅等の中心市街地へのアクセス性が向上し、都心環状道路網の整備促進が図られた。	○B ○C
効 率 性	①費用便益比 ●a ○c 費用便益比は1.0を上回っており、本事業は経済的に妥当であったと評価できる。	●A
	②コスト削減の状況 ○a 削減率20%以上 ○b 削減率20%未満 ○c 削減なし	○B ○C
総合評価	●A (妥当性が高い) ○B (概ね妥当である) ○C (妥当性が低い) 本事業により、渋滞緩和を図るとともに道路利用者のアクセス性及び安全性の向上が図られた。また、歩道融雪施設を整備したことで、地域住民の満足度も高く、当事業の妥当性は高いと評価できる。	

3. 評価結果の同種事業への反映状況等(対応方針)

今後も事業開始前の予備調査や設計段階での現地状況の把握及び住民との合意形成、詳細設計における適正な事業費の把握に努め、コスト削減に関しても積極的に取り組み、効率的な事業執行を図る。
当該工区と同様、道路利用者や周辺住民等から高い満足度が得られる事業の実施に努める。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

○総合評価の判定基準

総合評価の区分	判 定 基 準	総合評価
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	A
B (概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合	
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合	